

令和7年度（秋）宮崎大学公開講座

「源氏物語

～浮舟巻(後半)を読む～

集中講義予定

会場：錦本町ひなたキャンパス

「源氏物語 ～浮舟巻(後半)を読む～」とは、

この巻前半の二度の逢瀬で見せた情熱的な匂宮の態度により、薫の愛人である浮舟は、匂宮にもすっかり心惹かれるようになりました。匂宮とのやりとりはその後も続き、今回それが、とうとう薫の知るところとなります。

そのきっかけが浮舟に宛てた匂宮の手紙であったことは、遠く若菜下巻で薫の父・柏木が、母・女三の宮に宛てた手紙を光源氏に見せられ、二人の関係が露わになったことと呼応しているらしく、単純に因果応報とは言えませんが、この辺りもまた、源氏物語作者の構想力の確かさを窺わせるものとなっています。

次第に追い詰められていく浮舟は、どちらでも良いから決断しなさいという意味だったらしいのですが、右近の姉が、同じく三角関係に陥って選べず、結局は三人とも破滅してしまった話を右近から聞かされてしまいます。



相前後して浮舟の母・中将の君が、「大恩ある中君に恥をかかせるようなことがあれば、実の娘でも許さない」といった発言をしますので、浮舟はとうとう入水を考えるようになりました。その途端、近くを流れる宇治川の音が一層大きく聞こえるようになったとありますから、前々回の講座でお話ししました東屋巻の最後で、浮舟が姉・中君の邸から三条の小家へ、さらには薫によって宇治へ移動させられたのは、全てこのためだったことが知れるのです。

先ほども申しましたが、源氏物語作者の構想力というのはこのように凄まじいもので、それが「名作」と言われる所以の一つなのですが、今回はその辺りを中心に味わっていただければと思います。

講師：宮崎大学名誉教授
博士（文学） 山田 利博

	期 日	内 容
第1回	令和7年11月15日(土) (10:30-12:00)	浮舟、母の話から、入水を思う
第2回	令和7年11月15日(土) (13:00-14:30)	薫と匂宮の使者同士出くわす
第3回	令和7年11月16日(日) (10:30-12:00)	右近、姉の悲話を語る
第4回	令和7年11月16日(日) (13:00-14:30)	浮舟、死を決意して、文を処分

◆受講方法

1. 9月17日(水)から募集を開始します。お電話、FAX、E-mailにてお申込ください。

宮崎大学学び・学生支援機構共創人材育成課

受付時間：9：00～16：00（土日・祝日は除く）

電話：0985-58-7188 FAX：0985-58-7974

E-mail：m-chiiki@of.miyazaki-u.ac.jp

※申込時の情報は、公開講座に関する業務のみに利用され、その他の目的には利用されません。



2. 受講申込（仮予約）がお済みの方は、銀行窓口で受講料を納入してください。

◆受講料：3,000円（全4回分・消費税込）

◆入金期日：申込日より1週間

◆振込先：宮崎銀行 清武支店 普通預金

口座番号：57863

受取人：国立大学法人宮崎大学（ダイ）ミヤザキダイガク

電話番号：0985-58-7122

注）銀行窓口で受講料を納めた際は、振込金受取書を必ず受け取ってください。

領収書になりますので、大切に保管してください。

申込後、大学にて振込確認を行い、受講者名簿に登録させていただきます。これで、受講決定となります。

※受講料について

- ① 受講料は銀行振込となります。当日の現金払いはお受けできません。
- ② 銀行振込の際には、振込手数料が必要となります。受講者の負担となりますのでご了承ください。
- ③ 受講料は返還できませんのでご注意ください。